

Larissa A. de Lomnitz,  
*Cómo Sobreviven Los Marginados*

México, Siglo Veintiuno Editores, 1991年版, 229pp.

世界の人口は53億を超え、途上国はその8割近くを占める。第三世界のいくつかの国々では、よりよい就業機会を求めて過剰に吸引された農村地域からの移動によって急速な都市地域への人口集積がみられる。先進工業国とは違い主に都市の周辺地域に住みつき、都市貧困層を形成し、さらに広がりをもつ傾向がある。本書の研究対象地域となっているメキシコシティーは、今日、世界最大の都市圏域のひとつになり1,800万近くの人口規模をもつと推測されている。都市周辺の不法占拠地帯や市街地のスラム地域に居住する民衆は、首都圏人口の過半数を超えるとも言われ、すでに都市第二世代、第三世代も生活している。都市下層民衆の存在はメキシコ市に限らず南米をはじめ途上国の大都市でも、人口数では決して“周辺”人ではない。しかし、これらのひとつひとつを社会科学の領域で十分に研究対象としてきたとはいえない。都市下層民衆の問題は、広く人口と開発、人口と環境の問題などと併せて、避けられない今日的な人口問題でもある。本書は、都市下層民衆の実態と生存基盤のメカニズムを人類学的視点から明らかにすることをテーマとしているがさらに人口研究の分野にも示唆する点が多い。

著者ラリサ・ロムニツ (Larissa Lomnitz) の研究の視点は、メキシコ社会におけるサブシステム (社会階層) 維持存続のメカニズムを、親族システムのあり方から人類学的に解明する点にあるが、南米をはじめ途上国の社会にも普遍化できるとしている。とくに、本書は、都市下層民衆居住区の住民を対象にした実証研究で、市の南部に位置し主たる調査対象となった「セラダ・デル・コンドル (Cerrada del Cóndor)」に居住する200世帯の例を引きながら、都市下層民衆の実態と存続のメカニズムを解明する章立てが全10章から構成されている。

都市の貧困層を研究対象とした先駆的業績は、「羅生門法」による叙述の方法により成果を上げたオスカー・ルイス (Oscar Lewis) の『貧困の文化』であり、併せて都市人類学の先駆けとなったことは周知である。ロムニツの功績は、ルイスの研究をスラム地域での実地調査をもとに、全体を通し記述的データを駆使し、より科学的なレベルまで引き上げたことにあり、この研究成果が彼女の名を著名なものにしたといえる。

第1章では、スラムの概念規定をしている。都市社会学でスラムは、「物理的に劣悪な居住環境にある低所得者層の居住地域」(新津晃一)を意味するが、ロムニツは、スラム (Barriada) に住む都市下層民衆の「周辺性 (恒常的な雇用、収入の不安定性)」に注目し、貧困と周辺性を量的・一過的な概念と構造的な概念とに区別したうえで、これら二つを組み合わせて「貧困の周辺性 (Marginalidad de pobreza)」という説明概念を用い、途上国のスラムの事象を分析、検証している点がユニークである。

第3章では、都市下層民衆にみられる国内の人口移動過程を、「生態学的ニッチ (nicho ecológico)」というキー概念を用い、不均衡 (Desequilibrio)、移動 (Traslado)、安定化 (Estabilización)、——安定化は、さらに定着 (Asentamiento)、定着地との相互作用 (Interacción con el lugar de destino)、出身地との相互作用 (Interacción con el lugar de origen) の3期に区分される——という3段階の局面を示す生態学的モデルの提示によって検討、説明している。

第5章以降では、都市下層民衆の生活の存立基盤である相互扶助のネットワークを家族、双系的親族組織、近隣関係、擬制的親子関係 (代父母関係——Compadrazgo) や友人関係 (Cuatismo) などからアプローチし、その生存基盤が三世代家族をはじめとする拡大家族を中心とした住民間の社会的相互扶助のシステムにあることを明らかにしている。ここでは、なによりも個別の家族に注目し、出自を重視する立場からそれぞれの家族の持つ系譜に関するデータをワンセットとし、これを分析単位として集積することによって、都市下層民衆家族のもつキャリアパターンなどの人口学的変数を掌握した点が特筆され、結果的に社会政策立案などの基礎的データを提供することにもなっている。

ロムニツの研究は小地域の動態調査を踏まえており、その分析方法などある意味で都市下層民衆の“人口の人類学”の一端とも言える。地球社会を視野に入れても十分に意義のある研究であり、日本に限っても外国人労働者問題の動向などで21世紀には重要性、緊急性をもつ研究分野になっていないとはいえない。(西岡八郎)